

朋友だより

春爛漫の季節となりました。皆様お変わりありませんか。
朋友だよりでは、このところ連続で日本のあるべき姿を、
小生なりに追求しております。
今回も異色な本に出合ったのを契機に、日頃考えている
ことをまとめてみました。
ご参考になれば幸甚です。

2012年4月

(有)コンサルタント朋友
代表取締役 奥長弘三



持続可能な日本を展望する



土建国家日本の肖像

アレックス・カー著『犬と鬼 - 知られざる日本の肖像』(講談社 2002年4月)を読みました。著者のアレックス・カー氏は父親の勤務の関係で6才のとき来日、以来35年間の大半を東京、四国そして京都で暮らしたアメリカ人です。

同書によると日本で盛んに行われている工事は、世界的に見て異常であることがわかります。

アメリカ政府は環境に与える影響が大きいため、原則としてこれ以上のダム建設の中止を決めただけでなく、既存のダムの撤去をスタートし、90年以降全米で70を越える大型ダムが撤去されました。ところが日本では既に2800を越えるダムがあるのに、更に500も造ろうとしています。(同書P.22)

また護岸工事にテラポットを使うと波の作用で砂の流出が早まって海岸の浸食が激化することがわかり、アメリカでは80年代から堅固な護岸工事を禁じる州が増え、既存の護岸設備の撤去を命じる州も出てきています。しかし日本では全海岸の60%以上をコンクリートブロックやテラポットで覆いながら、まだ止めようとしていません。(同書P.25)

費用や採算性も環境に与える損害も無視して、本当に必要かどうかも気にせず、ただひたすら推し進められる土木事業によって美しかった山河は瀕死の状態にあります。

政治家と官僚から全面的なバックアップを受け、建設業界は成長に成長を重ね、20世紀末には全産業就業者の約10%、690万人の労働人口を抱えるまでに膨張します。工事を止めれば、大勢の人が職を失うので、政府は次々と公共工事という注射をしなければなりません。日本中が建設依存症という中毒になっているようなものです。(同書P.27)

50年後、100年後の日本を見据えて新しい産業を育成し、出生率や食糧自給率を高めるための対策を行うのではなく、半世紀にもわたって目先の利益と経済成長ばかりを優先し、殆ど車の通らない道路や利用者のいない箱物施設、何十年も前に計画され、今や益よりも害の方が大きいとわかっているダム建設を全国

津々浦々に続けます。しかも談合や随意契約がまかり通っていたため、建設費は割高になり、税金がそれこそ湯水のように浪費され、現在の財政破綻の大きな原因となっています。

日本の現状を痛烈に告発する書ですが、タイトルの『犬と鬼』には説明が必要でしょう。中国の古典『韓非子』に出てくる故事によっています。(同書P.12)。皇帝が宮廷画家に「描きやすいものは何か、描きにくいものは何か」と問います。画家は「犬は描きにくく、鬼は描きやすい」と答えます。私たちの直ぐ身近にある犬のようにおとなしく控えめな存在は正確にとらえるのが難しい、しかし派手で大袈裟な想像物である鬼は誰にでも描けるというのです。このことから現代の諸問題の基本的な解決は地味なだけに難しい、ところが派手なモニュメントにお金をつぎ込むことは簡単です。1960年代以降、日本社会は「犬」を追求せず、専ら「鬼」ばかりを追求した結果、国土、景観、文化を破壊しただけでなく、財政も破綻させてしまいます。

1960年代までは、世界の注目の的になるほど「近代化」に成功した日本が、1990年代以降は、世界の近代化の歩みに乗り遅れたという深刻な課題を、本書は投げかけています。

日本の物事のやり方、株式市場の運営、高速道路の設計、映画制作などは、本質的には60年代で凍結してしまった。40年もの間、これらのシステムは少なくとも表面上は円滑に機能した。この間、日本の官僚は外国の進んだシステムや新しい発想は無視し、一方、一般的な市民が政府に口出しをしなくなった。何十年もの長き間、眠り続けた官僚にとって、90年代の新たなコミュニケーションやインターネットは、まさに寝耳に水だった。(中略)

このような現状に対して官僚たちが不安になって採った策はモニュメントを造ることだった。それも国を破産させるほどの勢いで。そうすることしか思いつかなかったのだ。(同書p.12)

NHK報道「インフラ崩壊」

最近NHKが興味深い番組を報道しました。2012年3月31日21:00放映の「NHKスペシャル 日本新生、インフラ危機」です。橋、道路、上下水道、ガス管等のインフラが建設後、半世紀を経過し、全国各地で生活に直結する事故が相次いでいると言います。橋の危険箇所だけで、全国1300カ所にのぼります。インフラの修理費だけで年間9兆円かかります。

インフラ以外にも、毎年膨大な建設費で進められた博物館、公民館等の公共建設物の維持管理費が地方自治体の悩みの種となっています。この中にはバブル崩壊後、景気対策として国からの要請ですすめられたものも数多くあるそうです。

前述の『犬と鬼』でアレックス・カー氏が告発していた、日本の土建国家のつけが、今、各自治体を襲っていると言えるでしょう。

これへの対応の一つの試みとして、「コンパクトシティ」構想が紹介されていました。

モデルはアメリカのヤングスタウン市です。かつて鉄鋼の町として栄えたまちですが、鉄鋼会社が撤退したあと、まちはゴースタウンとなります。住民の合意を得ながら、住民に一区割に移り住んでもらいます。そしてそこには各種のインフラを徹底的に整備します。それ以外の地域の古い建物は取り壊し、人の住まない森林とします。

日本でもこのコンパクトシティ構想が富山市や岩手県大槌町で試みられている例が紹介されていました。住民の合意が不可欠のもので、インフラ危機の解決を住民と共に進めるケースとして注目されます。

これから何をすれば良いか

日本を持続可能な社会にしていく為に、私たち中小企業経営者は何をすれば良いのでしょうか。

中小企業家同友会の理念の一つ、「国民や地域と共に歩む中小企業をめざす」が重要な道しるべを与えてくれます。

しかし現在の日本を見ても、大企業はどんどん海外に出て行くし、地域社会は極度に疲弊しています。その中でどのようにしたら、国民や地域と共に歩んでいけるのでしょうか。

この点に大きなヒントを与えてくれるのが、中

同協 中小企業憲章・条例推進本部が、2011年6月発表した「中小企業の見地から展望する日本経済ビジョン」です。6項目から成っています。

1. 多様な産業の存在と中小企業が発展の源泉となる日本経済を築こう
2. 「国民一人ひとりを大切にする豊かな国づくり」の為の内需主導型経済をつくろう
3. 成熟社会とグローバル化に対応する新しい仕事づくり、産業づくりをすすめよう
4. 生活の質の向上をめざす政策を展開し、公正、共生の社会にかえよう
5. 地域内循環を高め、地域資源を生かした地域経済の自立化をめざそう
6. 景気を自ら創る気概をもって、中小企業発展のモデルとなろう

一社一社が経営指針を持ち、自社の進むべき方向を明らかにし、社員と共に実践していくことが何より重要です。その際に、上記「日本経済ビジョン」を参考にしながら、内需主導型経済の実現を目指して、地域資源を生かす等、地域に根ざした新しい仕事づくりに挑戦したいものです。しかしこれらは、中小企業経営者の力だけで行うことには限界があります。経営者、経済団体、行政、大学、住民等の協力が不可欠でしょう。中小企業は地域の発展と切り離せない関係にあります。中小企業が元気になれば、地域社会も賑わいを取り戻します。

全国各地の自治体で、中小企業振興基本条例の制定がこの2～3年で進んでいることに注目しています。基本条例ができてすぐ地域が活性化されるほど甘いものではありません。条例制定後、10年、20年の地道な努力が必要なことは、全国のトップを切って条例を制定した 東京・墨田区の事例が示しています。

しかし条例の制定がまちづくりの第一歩になることは間違いありません。日本を持続可能な社会にしていく為には、地道にこの道を進むしかないと考えます。



大和化学工業株式会社

(奈良県北葛城郡広陵町：代表取締役会長 平山雅英氏
代表取締役社長 東田誠次氏)

同社は今年で創業 55 周年を迎えます。創業当時は中空成型専門メーカーとして発足しましたが、その後事業領域を射出及び真空成型事業にもひろげ、今ではすべての製法で内製できる体制を整えた総合プラスチックメーカーです。

平山社長のお父さんが創業した会社ですが、二代目を継いだ実兄が急逝されたので、昭和 55 年に三代目社長に就任します。当時、同社はどん底の状況で赤字が続きます。

ある時、夫人から「お父さん、営業に行きなさいよ」と言われ、平山社長はお客さんまわりを始めます。昭和 57 年頃、お客さんの困っていることを形にしたら、商売になることに気がつきます。ここから現在の和化学工業が始まります。

中堅社員からは、自分が入社した当時と比べ、会社も社員も確実にレベルがあがっていると実感できる会社になっているとの声が聞かれます。中空、射出、真空の三つの製法に対応でき、商品の企画・開発から試作・量産までこなすことが出来るのが同社の強みです。

昨年 3 月の東日本大震災の直後、被災地からの要望に応え、飲料水用タンクを製造・提供し、感謝されています。

長年の懸案だった経営理念が成文化され、平山社長の友人である書道の先生に書いていただいた経営理念の額が応接室に飾れています。

今年 4 月に社長を東田氏にゆずり、新体制のもと、自動車関連に片寄りすぎた体質の見直しも含め、新たな挑戦に臨もうとしています。これからの展開が楽しみな会社です。

企業精神

先義後利・不易流行

経営理念

私たちはプラスチックを核としたものづくりを通して
“感動を創造” します。

お問い合わせ： 大和化学工業株式会社 (<http://www.daiwaci.co.jp/>)
〒635-0814 奈良県北葛城郡広陵町南郷 986-1
TEL.0745-54-5121 FAX.0745-54-5539

* ~ あとがき ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ *

朋友だより 115 号をお届けいたします。

例年より少し遅れましたが、東京の桜も満開となりましたので、私も近くの観音様に桜を見に行きました。お釈迦様の誕生日である花祭りの日でしたが、ちょうど見頃でした。昨年は大震災がありあまり楽しめなかった記憶があります。まだまだ困難と不安を抱える毎日ですが、今年は青空に映える桜の花に癒やされ春を感じました。最近、一部大学の秋入学が検討されていると聞きますがやはり入学式、社会へのスタートは 4 月の桜が似合うと私は思います。(野上)



朋友

有限会社 コンサルタント朋友
〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-36-11
千駄木センチュリー21 602 号
TEL . 03-5815-3021 FAX . 03-5815-3022

e-mail foryou91@tokyo.email.ne.jp
URL:<http://www.consultant-hoyu.co.jp>